

令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 さくら小 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
239	243	18	17

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策			
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価概要	学校関係者評価の意見	標語
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1				
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					48	129	24	5	37	12	3	1	0	1	13	4	1	0	1年生が、要町保育園、南長崎第一保育園と2月に交流。 明豊中の未来トークに5,6年生から数名参加。	保護者の「0」回答が多い。2～5年生は自分たちと関りが無いと思っている感じがする。取組内容の発信、伝え方の改善が必要	A	・小中連携はごみゼロデーの取組を小中合同で行う。 ・中学生がリトルティーチャーとして小学校の授業に参加する。 ・幼保小では、1年生との直接交流を実施する。
II	確かな学力の育成	II-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	97	127	12	0	7	7	6	1	0	3	15	3	0	0	「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」の実現のため、特に理科の授業研究を通して授業改善に組織的に取り組んだ。	・保護者、地域、教職員いずれも高評価である。このまま継続して欲しい。 ・子供に考えさせる授業をしている。	A	・授業において、タブレットの有効な活用を積極的に行う。 ・としまっこの学びを基にしたさらなる授業改善に取り組む。 ・家庭学習において、タブレット活用を推奨していく。			
		II-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		101	120	11	1	10	7	7	0	0	3	13	4	1	0	「としまっこの学び」を活用することで、全教員が一致した授業スタイルを身に付けることができた。						
III	豊かな心の育成	III-1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		80	138	4	1	20	7	7	0	0	3	11	7	0	0	道徳科の時間を中心として、より良い人間関係を築けるように指導を行っている。全校行事や学期の始まりや終わりに「キャリアパスポート」を活用し振り返りを行い、生活に生かせるようにしている。	・保護者、地域、教職員いずれも高評価である。 ・さくらルール、さくらしぐさが定着している。	A	・授業の中で対話的な活動を多く取り入れ、授業の中で相手の気持ちや思いを聞こうとする姿勢を育てていく。 ・縦割り班活動の異学年交流を通して、下級生に優しくする心情を育む。 ・道徳の時間を中心に、どの教科でも振り返りの時間を確保し、自己をみつめる時間を大切に、自己理解、他者理解する力を養う。			
		III-2	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。		84	134	7	2	16	10	5	0	0	2	9	8	1	0							
IV	健やかな体の育成	IV-1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		71	140	20	2	10	8	7	1	0	1	13	5	0	0	児童は運動委員会や保健給食委員会を中心に、主体的に活動に取り組み、体力向上や食育、健康の推進を意識して全校で取り組むことができた。	・保護者、地域、教職員いずれも高評価である。 ・子供は健康である。	A	・体育的行事委員会を中心に、体力向上を図った取組の企画・立案を行い、振り返りを行っていく。 ・食育の年間指導計画を見直し、日常の中で計画的に食育を行っていく。			
		IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		112	117	5	0	9	7	8	0	0	2	15	3	0	0							
V	一人一人を大切にできる教育の推進	V-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。		59	119	18	6	41	8	7	0	0	2	17	1	0	0	i-check、心のアンケート、いじめに関する調査を実施し、調査結果を基に、実態把握や予防に努めた。週1回の生活指導夕会、月1回のいじめ対策会議で情報共有している。	・保護者、地域、教職員いずれも高評価である。 ・先生方が子供に寄り添った指導をしている。	A	・個々の対応では、通時、チームステップの利用を検討する。 ・生活指導夕会で日々の児童の様子をすすんで共有していく。 ・学校便りなどでいじめについての対応等生活指導や特別支援教育について発信していく。 ・特別支援教室の具体的な活動内容を、HPや保護者会等で紹介していく。			
		V-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		80	127	21	1	14	8	6	1	0	2	11	7	0	0	特別支援教育においては、保護者会等を通して、相談機関の紹介など情報を発信できるよう努めた。また、学校だけでなく「特別支援教室」のコーナーを作り、情報を発信した。						
		V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	47	103	10	0	83	6	6	0	0	5	13	4	1	0								
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	69	144	16	4	10	8	9	0	0	0	6	12	0	0	学校の秩序を保つため、様々な案件に対して、生活指導部を中心に、組織的に対応している。また、週1回の生活指導夕会で全職員で情報共有、対応の確認など全校体制で対応している。	・保護者、地域、教職員いずれも高評価である。 ・先生方が子供に力を入れることができる環境づくりが必要	A	・さくらのルールやさくらしぐさをことあるごとに意識させ、規範意識を高める ・地域・保護者の方に分かりやすく答えやすい学校評価アンケートを検討していく。また、グーグルフォームを活用したアンケートの実施を検討していく。				
		VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	54	122	18	1	48	9	7	0	0	1	8	9	1	0	公開授業の際、保護者アンケートを実施し、改善に生かしている。							
VII	家庭・地域との連携	VII-1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	95	114	27	2	5	11	5	0	0	1	5	11	2	0	継続的に、ホームページを使って学校での児童の様子を伝えられるように努めたが、学年毎に更新の頻度に違いがあることが課題。 タブレット端末でのクラスルームを活用し、クラスごとに細かい活動の様子を伝えられるように努めている。また、個人面談を年2回行うことで、具体的に児童の様子を保護者に伝える機会を増やした。	・学校と地域とが連携できている。 ・地域の「4」回答が多いのでよい。 ・学校の取組は伝わってきているので、安心してほしい。 ・子供中心に行うことが大切。 ・地域活動も制限された子供家族の多様性で、地域に目を向けて参加する人が少なくなった。	B	・HPだけでなく、タブレットのクラスルームを活用し、情報を発信していく。 ・学校公開の授業では、児童と保護者が一緒になって楽しめる活動を積極的に検討していく。				
		VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	75	144	12	1	11	11	5	0	0	1	12	6	0	0								
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、安全・安心な学校づくりへの取り組みに関する教育を推進している。	84	139	3	0	17	12	5	0	0	0	11	7	0	0	安全・安心委員会を中心に校内掲示や呼びかけを行った。各委員会の安全安心に関する取組、地域と連携した合同防災訓練の実施、「さくらのルール・さくらしぐさ」の活用を通して、安全安心教育を推進してきた。	・子供中心に行うことが大切である。3年生の防犯に対する取組が素晴らしい。	A	・今までの取組を生かし、安全・安心な学校作りを継続して行っていく。 ・防犯の強化を目白警察と連携して行っていく。				
IX	働き方改革	IX-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															校務支援システムを活用した情報共有を行うことで、会議の回数や時間を縮小できた。	・さらに向上を期待。 ・先生方の負担を軽減していけるようにしてほしい。 ・教育委員会の支援が必要。ゆとりをもって教職員が働ける環境づくりを。	A	・校務支援システムを有効活用し、さらなる会議の回数縮小および時間短縮を目指していく。				

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある